

2. 据付け前のお願い

工事店さまへ

■次のような場所には据付けしないでください。(故障の原因になります)

- ・40℃以上になる場所
- ・-10℃以下になる場所
- ・常温で相対湿度90%を超える場所
- ・冷凍室など氷結するおそれのある場所
- ・腐食性ガスの発生する場所や化学薬品を扱う場所
- ・可燃性ガスの発生、流入、滞留、漏れのおそれのある場所
- ・酸性、アルカリ性ガスの発生、流入する場所
- ・製品の前後に障害物のある場所
- ・繊維工場、製陶工場など多量の綿ほこりや砂塵、粉塵の発生する場所
- ・風雨にさらされる場所
- ・厨房等で油煙・蒸気が直接製品にかかる場所
- ・塩害地域(塩害地域においては早期に錆が発生するため定期的に保守点検・清掃を行い、必要に応じて交換を行ってください)

●ハウス内の土壌消毒や太陽熱消毒など室内が高温になる場合は製品を必ず取り外してください。

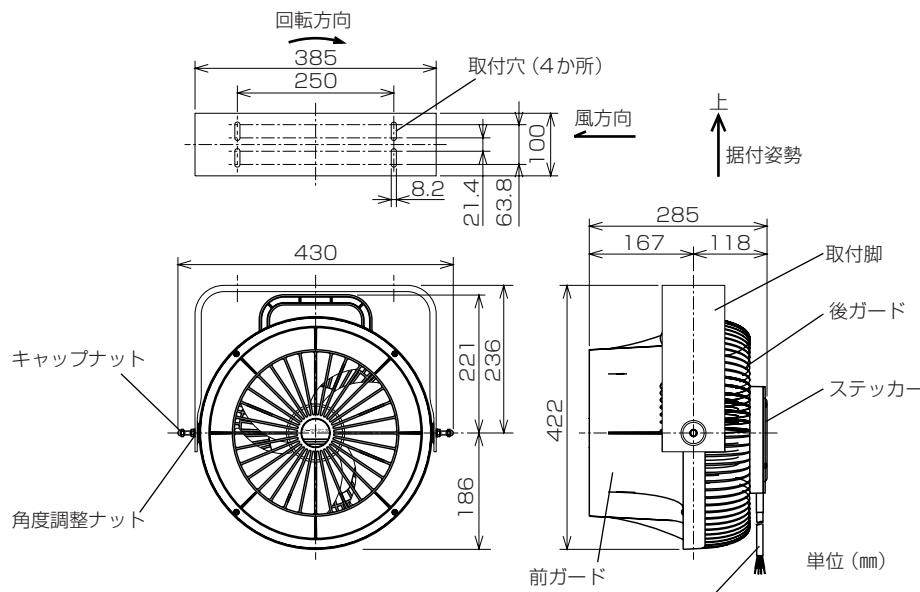
●指定している据付方法以外では使用しないでください。

●ダクトなどに接続しないでください。

●「4. 据付方法」を参照してください。

3. 各部のなまえと外形寸法図

工事店さまへ



ビニールキャブタイヤケーブル 0.75mm² 有効長1m
 ※PF-H25ATAの場合: 4芯、電源(アカ・シロ・クロ)、アース(ミドリ)
 ※PF-H25ASAの場合: 3芯、電源(シロ・クロ)、アース(ミドリ)

1. 安全のために必ず守ること

お客さまへ
工事店さまへ

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

- 警告** 誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
- 注意** 誤った取扱いをしたときに傷害または建物・機械などの損害に結びつくもの

お客さまへ

警告	製品を水や消毒液につけたり、水や消毒液をかけたりしない ショート・感電・火災の原因。
分解禁止	どんな場合でも改造はしない分解修理は修理技術者以外の人に行わない 火災・感電・けがの原因。 修理はお買上げの販売店または当社のお問い合わせ窓口にご相談ください。
接触禁止	運転中は危険ですから、製品の中に指や物を入れない けがの原因。 電源が入ったままで運転が停止しているとき、異常時(こげ臭いなど)・停電時は、製品には絶対にふれない 突然運転し始めてけがや感電の原因。
ぬれ手禁止	ぬれた手で操作をしない 感電やけがの原因。
指示に従う	お手入れや保守点検の際は必ず分電盤のブレーカを切る 感電やけがの原因。 振動が大きい、羽根が回らないなどの異常時には、使用を中止する 落下・焼損の原因。 据付けは専門業者に依頼する 漏電・感電や災害の原因。 シーズン前および自然災害発生後は異常がないか点検を行う 落下・焼損の原因。

工事店さまへ

警告	定格電圧・定格周波数以外では使用しない 火災・感電の原因。 爆発性の粉じんやガスの発生する場所または発生するおそれのある場所には据付けしない 爆発や火災の原因。 送風用途以外には使用しない 火災・感電・けがの原因。 電圧調整による回転制御はしない モータ焼損の原因。 塩素消毒しているプール、酸・アルカリや腐食性ガスを含んだ湿気の多い場所に据付けしない 腐食して落下しけがの原因。
禁止	雨水のあたる場所には据付けしない ショート・感電の原因。 漏電ブレーカを確実に取付ける 漏電のときに感電の原因。 保守点検の際は必ず分電盤のブレーカを切る 感電やけがの原因。
水ぬれ禁止	アースを確実に取付ける 故障や漏電のときに感電の原因。

注意

禁止	直接炎があたるおそれのある場所には据付けしない 火災の原因。
浴室取付禁止	浴室など湿気の多い場所(常温にて湿度90%以上)には据付けしない 感電や火災の原因。 本体の据付けは振動のない強固な場所に確実に行う 落下によりけがの原因。 電気工事は必ず有資格者である電気工事事士が内線規程や電気設備技術基準に従って行う。絶対に「手より接続」はしない。又、電源電線の結線部分はJIS C 8340の「電線管用金属製ボックス」内にて行う 接続不良や誤った電気工事は感電や火災の原因。 開梱・据付け・保守点検およびお手入れの際は手袋を着用する 端面などでけがの原因。 部品の取付けは確実にを行う 落下によるけがの原因。 電気工事、アース工事は電気工事事士が行う 電気工事事士以外の人の工事は感電や火災の原因。 積雪、落雪の可能性がある場所には据付けしない 部品の破損・落下によるけがの原因。

注意

禁止	製品に異常な振動が発生した場合は使用しない 製品・部品の落下によりけがの原因。 1日50回以上のひんぱんな起動・停止を伴う使用はしない 部品の破損・落下によるけがの原因。 衝撃を与えない 感電や火災の原因。 台風時・強風時には使用しない 製品・部品の落下によりけがの原因。 製品にぶらさがらない 落下によりけがの原因。 長期間使用しないときは、必ず分電盤のブレーカを切る 絶縁劣化による感電や漏電・火災の原因。 羽根の汚れがひどい場合は必ず清掃をする 振動による部品の破損、落下によるけがの原因。 お手入れや保守点検の際は手袋を着用する 端面などでけがの原因。
指示に従う	

4. 据付方法

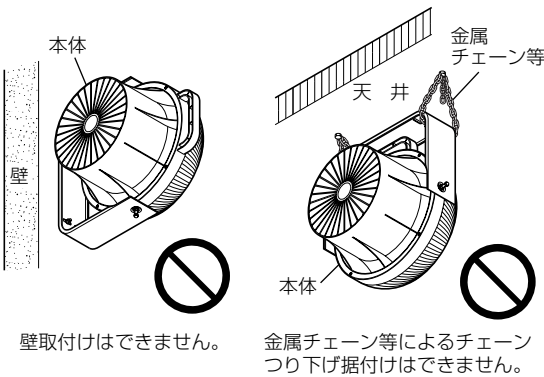
工事店さまへ

注意

- 指定以外の据付姿勢で据付をしない
- 本体取付用穴を4か所以上使用して確実に据付けること 固定なしでの使用はできません 本体の転倒や落下によりけがや製品の故障の原因。
- 平座金・ばね座金は、本体の据付け要領に従って必ず使用して据付ける
- 本体の据付けは振動のない強固な場所に軸水平状態で据付ける
- 据付面は歪みのない同一平面内にて据付ける
- 化粧ボード、壁材等の石こうボードへの据付けおよび木枠等への木ネジでの据付けは行わない 落下等によりけがの原因。
- 吸込側は250mm以上の空間を必ず設けて据付けること 送風性能が十分発揮されません。
- 必ず電源コードが下側になるように据付ける(ステッカー「上」表示に従って据付ける) 故障の原因。
- 安全のため据付けは2人以上で行う
- 開梱・据付の際は手袋を着用する けがの原因。

本体の据付け

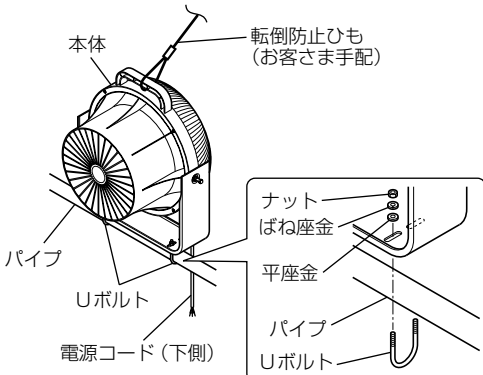
してはいけない据付けかた



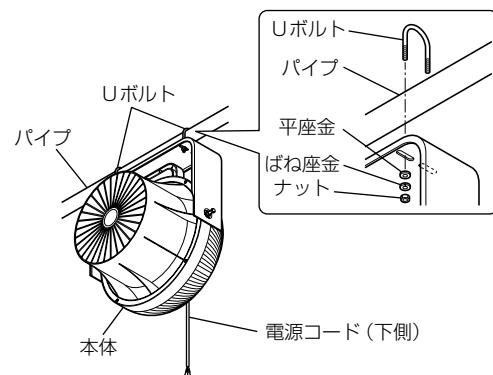
お願い

- Uボルト・ワイヤークリップ・平座金・ばね座金はお客さま手配です 寸法を確認の上手配してください。さび・腐食のおそれがありますので、溶融亜鉛メッキ品・SUS品のご使用をお勧めします。

上据付けの場合



つり下げの場合



注意

- 転倒防止のため、ひもやチェーンを1か所以上張る
転倒によるけがの原因。

4. 据付方法 つづき

工事店さまへ

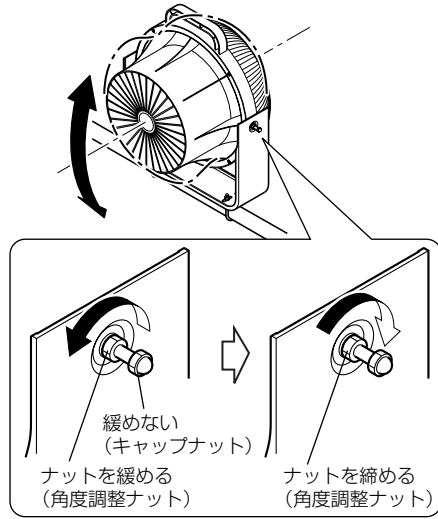
角度調整のしかた

本体角度は据付面に対して俯角 60° ~ 仰角 60° までの無段階の調整が可能です。

注意

- 俯角 60° ~ 仰角 60° 以外での角度で使用しない故障の原因。
- 俯角 60° ~ 仰角 60° の範囲であっても製品の前後に遮へい物がある場所では使用しない故障の原因。
- 角度調整の際には、中央の角度調整ナット、キャップナットをはずさない落下によるけがの原因。

1. 本体取付け後、角度を調節する場合は、中央の角度調整ナット（2か所）を緩める。
※キャップナットは緩めないでください。
2. お好みの角度に調整後、ゆるみなどが発生しないように確実に中央の角度調整ナットを締め付ける。
締付トルク：2.6 ~ 3.0N・m



5. 電気工事

工事店さまへ

警告

- 定格電圧・定格周波数以外では使用しない火災・感電の原因。
- アースを確実に取付ける故障や漏電のときに感電の原因。

- 電源は単相 100V と 3 相 200V の製品があります。電源の間違いがなく確認して接続してください。間違った電源で運転されますとモータが焼損します。
- 電気設備技術基準に基づき、電気工事士による D 種接地工事（アース）を行うとともに、漏電ブレーカを必ず設置する。（故障、漏電時の感電防止）

注意

- 電気工事は必ず有資格者である電気工事士が内線規程や電気設備技術基準に従って行う 絶対に「手より接続」はしない 又、電源電線の結線部分は JIS C 8340 の「電線管用金属製ボックス」内で行う接続不良や誤った電気工事は感電や火災の原因。

6. 試運転

工事店さまへ

電気工事終了後、正常に運転できるか使用者立会のもと試運転を行ってください。

据付工事終了後、次のことを確認します。

1. 製品は確実に据付けてありますか。
2. 電源コードに傷・いたみはありませんか。
3. 正しくアース工事がしてありますか。

ブレーカを「入」にして試運転を行う

4. 異常な振動や騒音はありませんか。
5. 3 相製品の場合、回転方向が逆ではありませんか。
(回転方向を修正する場合は、3 本の電源のうち 2 本を入れ換える)

7. 使用方法

お客さまへ

運転する……ブレーカを「入」にする

停止する……ブレーカを「切」にする

警告

- 運転中は危険ですから製品の中に指やものを入れない けがの原因。
- むれた手で操作しない 感電やけがの原因。

安全診断

- 使用上支障がなくても、安全のための診断を 1 か月に 1 度を目安に電源を切ってから行ってください。

8. 点検・お手入れ

お客さまへ

警告

- 保守点検の際は必ず分電盤のブレーカを切る感電やけがの原因。
- 製品を水や消毒液につけたり、水や消毒液をかけたりしないショート・感電・火災の原因。

注意

- 保守点検の際は手袋を着用する 端面などでけがの原因。

3 か月に 1 度の清掃の際、下記の点検を行う。

点検項目	処置
さび	● 製品および製品据付用のナット・ボルトがさびていませんか ● さびが部品の広範囲に発生している場合は、部品を交換してください（部品落下によるけがのおそれがあります）
ガタツキ	● 製品を据付けたナットがゆるんでいませんか ● 羽根やモータは確実に止められていますか ● ガタつきがないようにナットを締め付けてください（製品落下および羽根落下によるけがのおそれがあります）
損傷	● モータの外観が変色していませんか ● 電源コードにキズなどありませんか ● モータ交換をしてください ● モータ交換をしてください
ほこり	● モータなど温度の高い部分にほこりの付着はありませんか ● 清掃してください

1 年に 1 回程度

異常音	● ボールベアリングの寿命は約 1 万時間ですので使用状況によっては、点検のうえ交換が必要です
さび	● さびが部品の広範囲に発生している場合は、部品を交換してください
コード	● コードにヒビ割れ等がある場合には、モータの交換をしてください

羽根などの清掃

約 3 か月に 1 度を目安に清掃する。

- お手入れは中性洗剤を浸した布で汚れをふき取り洗剤が残らないように乾いた布でよくふき取る。
- 前ガード・後ガードは、掃除機でほこりを吸い取ってください。

全体の清掃

- 油・粉塵などの可燃性の汚れが部品に付着していると、万が一の飛び火により火災の原因となるおそれがあります。定期的（1 年目安）に清掃してください。

お願い

- お手入れに下記の溶剤・洗剤を使用しないでください。
シンナー、アルコール、ベンジン、ガソリン、灯油、スプレー、アルカリ洗剤、化学ぞうきんの薬剤、クレンザー等けんま材入りの洗剤（変質・変色する原因になります）

保管のしかた

- 必ず電源を切り、製品への水やほこりの侵入がないようにビニールシートなどで覆ってください。

9. 修理を依頼する前に

お客さまへ

長い間ご使用の製品は、使用上支障がなくても、安全のための診断をお願いします。

下記のような現象が見られる場合、お客さまで点検されても直らないときは、事故防止のためブレーカを切り、お買上げの販売店・工事店に点検修理をご依頼ください。費用については販売店・工事店にご相談ください。

現象	点検と処置	点検実施者	
		工事店さま	お客さま
通電しても回転しない	● 電源の接続は正しいですか（正しく接続する） ● ブレーカが切れていませんか（入にする） ● 温度ヒューズ（注）が動作していませんか（ブレーカを切って原因を取り除き、モータを交換してから再運転する）	○	○
運転中に異常音や振動がする	● 羽根の締め付けがゆるんでいませんか（締め付け直す） ● 本体が確実に据付けられていますか（据付け直す） ● 軸受の音がしていませんか（軸受を交換する） ● 全面にさびが発生していませんか（さびの発生した部品を交換する）	○	○
焦げ臭いにおいがする	● 羽根は軽く回りますか（羽根に何か引掛かっている場合は取り除く） ● 周囲温度が 40℃ 以下ですか（温度を測定する） ● 異常に湿度が高い場所で使用していませんか（据付場所およびモータ内部の腐食確認後モータを交換する）	○	○

（注）モータに過負荷保護装置として、温度ヒューズが内蔵されています。拘束、過負荷、欠相運転、異電圧印加、あるいは周囲温度が基準以上に高い場合は、上記過負荷保護装置が自動的に動作して回転が止まることがありますので、電源を切り原因を取り除いてください。再運転の場合は以下を実施してください。
〈処置〉ヒューズが溶断し通電不能となり再運転できません。電源を切り、専門の工事店へモータ交換を依頼してください。

10. アフターサービス

お客さまへ

アフターサービスは、お買上げの販売店へお申しつけください。

なお、おわかりにならないときは、当社のお問い合わせ窓口（添付別紙の「修理窓口・ご相談窓口のご案内」参照）にご相談ください。

補修用性能部品の保有期間

当社はこの ソーワテクニカ ストレートパワーファンの補修用性能部品を製造打ち切り後 7 年保有しています。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

11. 仕様

お客さまへ

工事店さまへ

形名	電源 (V)	周波数 (Hz)	電流 (A)	起動電流 (A)	騒音 (dB)	風量 (m³/min)	質量 (kg)
PF-H25ASA	単相 100	50	0.34	0.82	41.5	32	5.5
		60	0.41	0.79	44.5	36	
PF-H25ATA	3相 200	50	0.21	0.58	41.5	32	
		60	0.20	0.55	44.5	36	

※仕様値は、変更になる場合があります。
風速値は JIS C 9601 測定法による値です。
騒音は吹出口側中心位置より斜め 45°、1.5m の点における値です。

製造販売元 株式会社 ソーワテクニカ

〒509-9132 岐阜県中津川市茄子川中垣外 1646-45 電話 0573-78-0302

技術指導元 三菱電機株式会社

この説明書は、再生紙を使用しています。